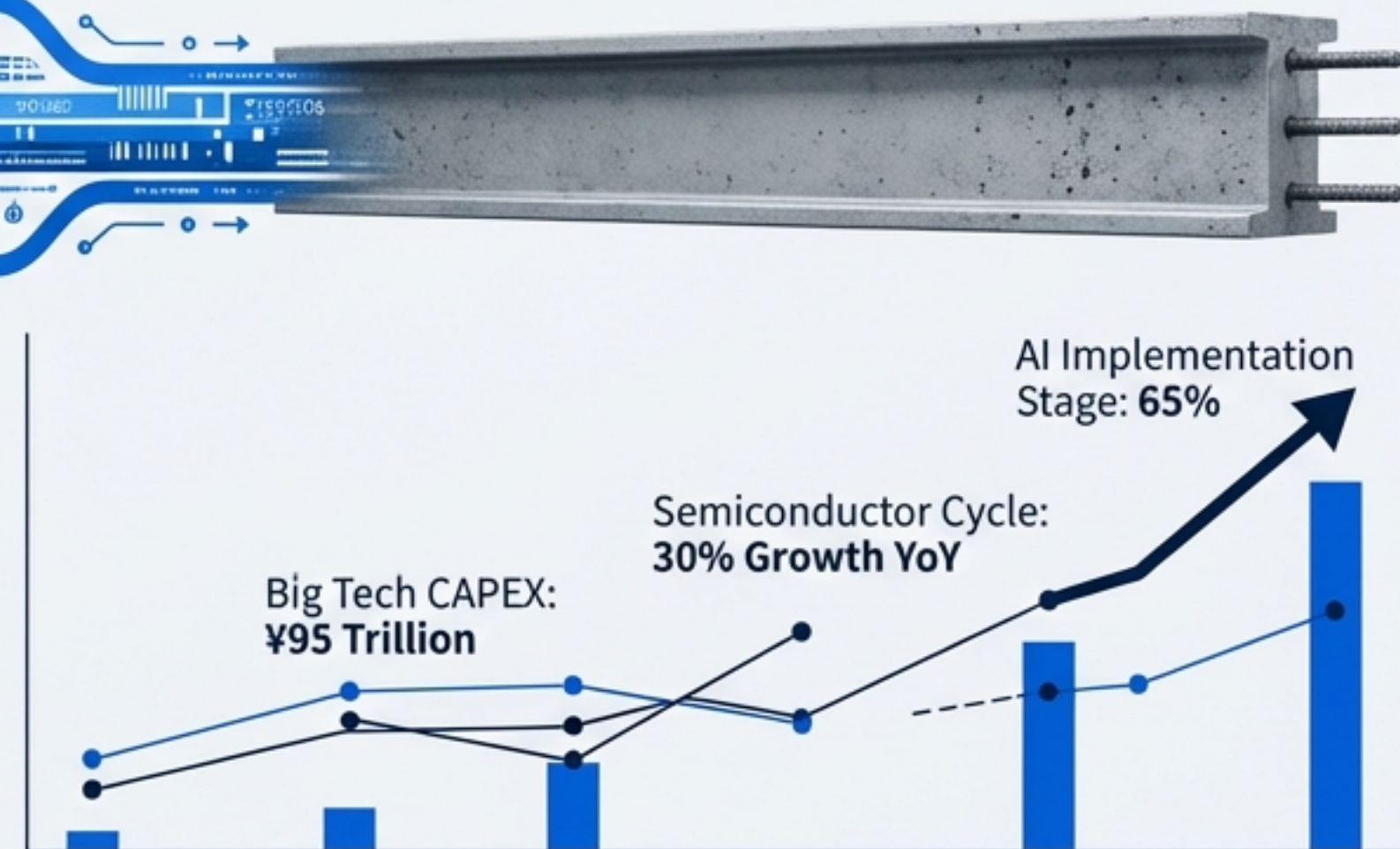


2026年戦略的展望： ビッグテック95兆円投資 と「AI実装」への移行

物理化するAI、半導体スーパーサイクル、
そして日本企業の生存戦略

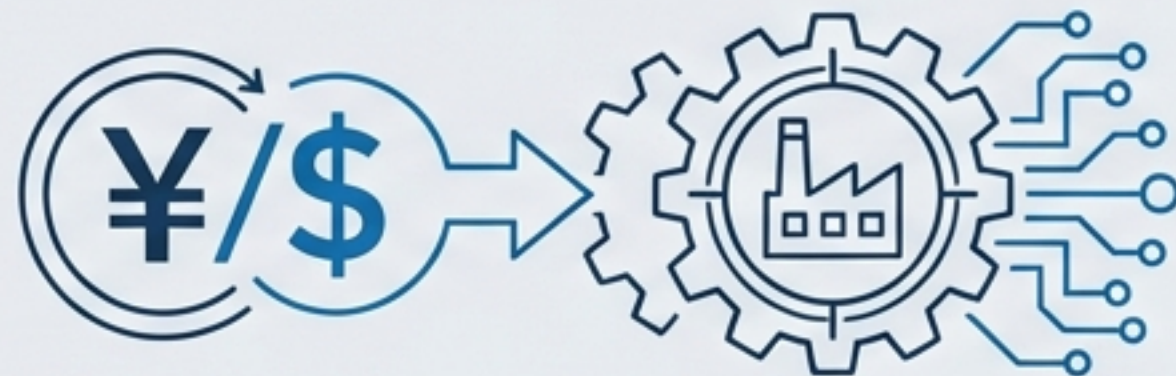


Source: 2026 Capital Expenditure Forecasts (Gartner/Company Filings)

エグゼクティブサマリー：2026年の分岐点

1 The Shift (潮流)

GAFAM設備投資が95兆円（\$600-700B）に到達。
AIは「学習」から「実装・物理化」へ移行。

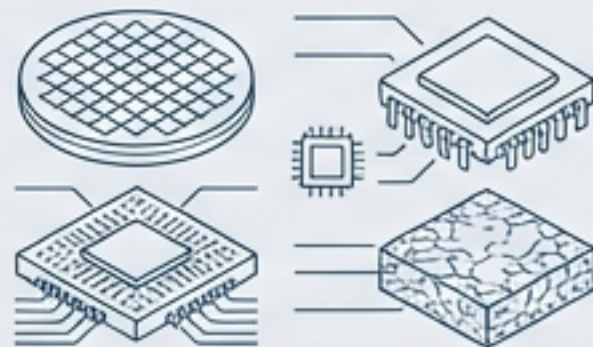


2 Japan's Dual Reality (日本の二面性)



**好機：半導体・素材のスーパーサイクル
(TEL, Advantest等)**

半導体の運用が代表穀や素材
を基礎設備・チップ生産、
上層高等合に素材を移行



**危機：デジタル赤字、円安の構造化、電力不足
(デジタル赤字不等)**

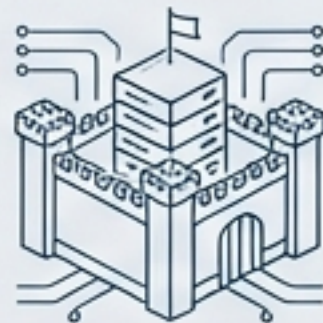
デジタル赤字悪化、円安の構
造化、電力不足と垂流物数と
デジタル赤字を悪化する不足



3 The Imperative (生存戦略)



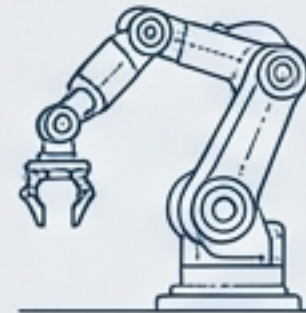
**「IT主権」の奪還
(脱・丸投げ)**



**エージェント前提の
組織再編
(APIファースト)**

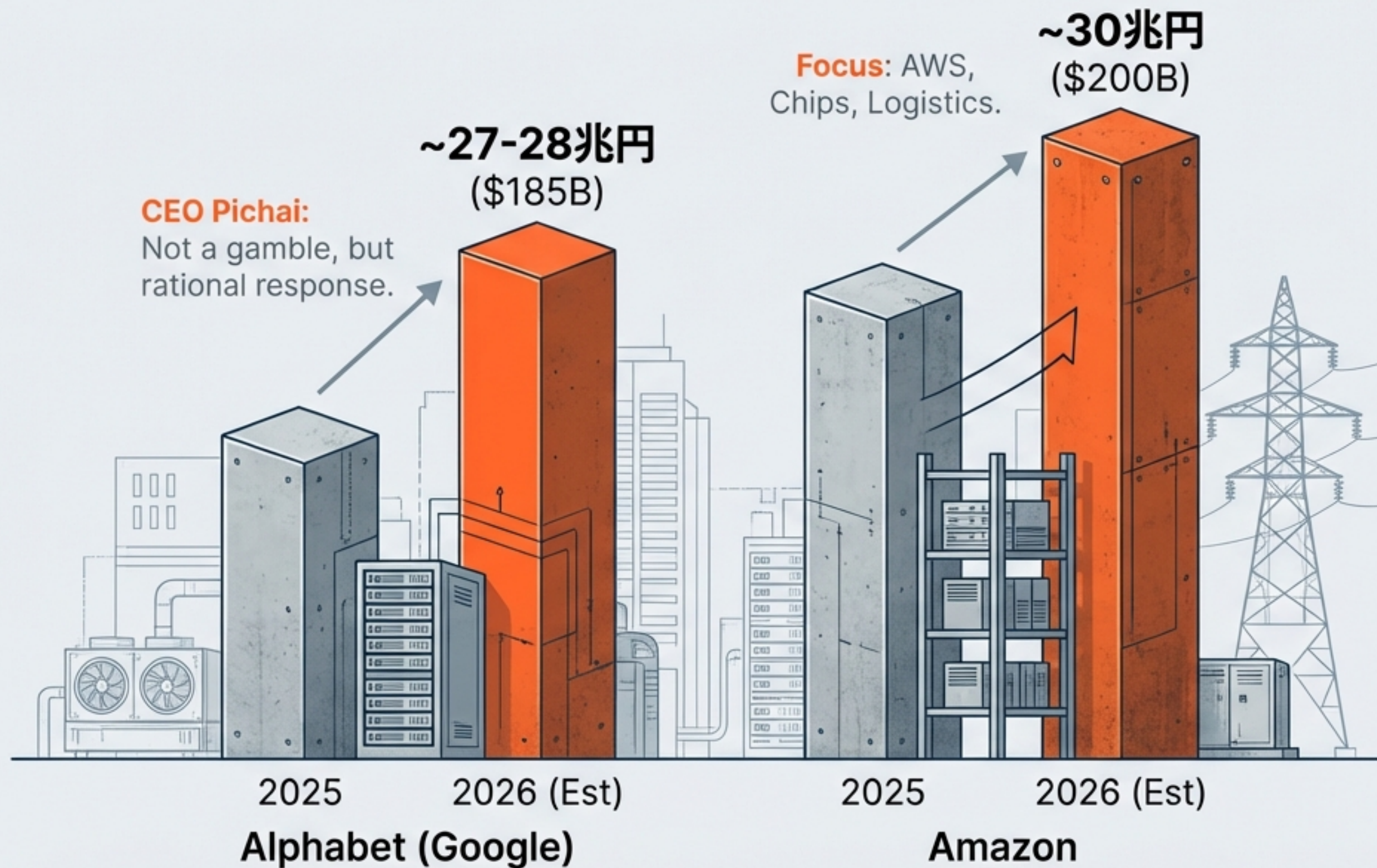


**高付加価値
ロボティクス
への集中**



95兆円投資の全貌：ソフトウェアから「重工業」への転換

2025 vs 2026 (Est) Capex Comparison

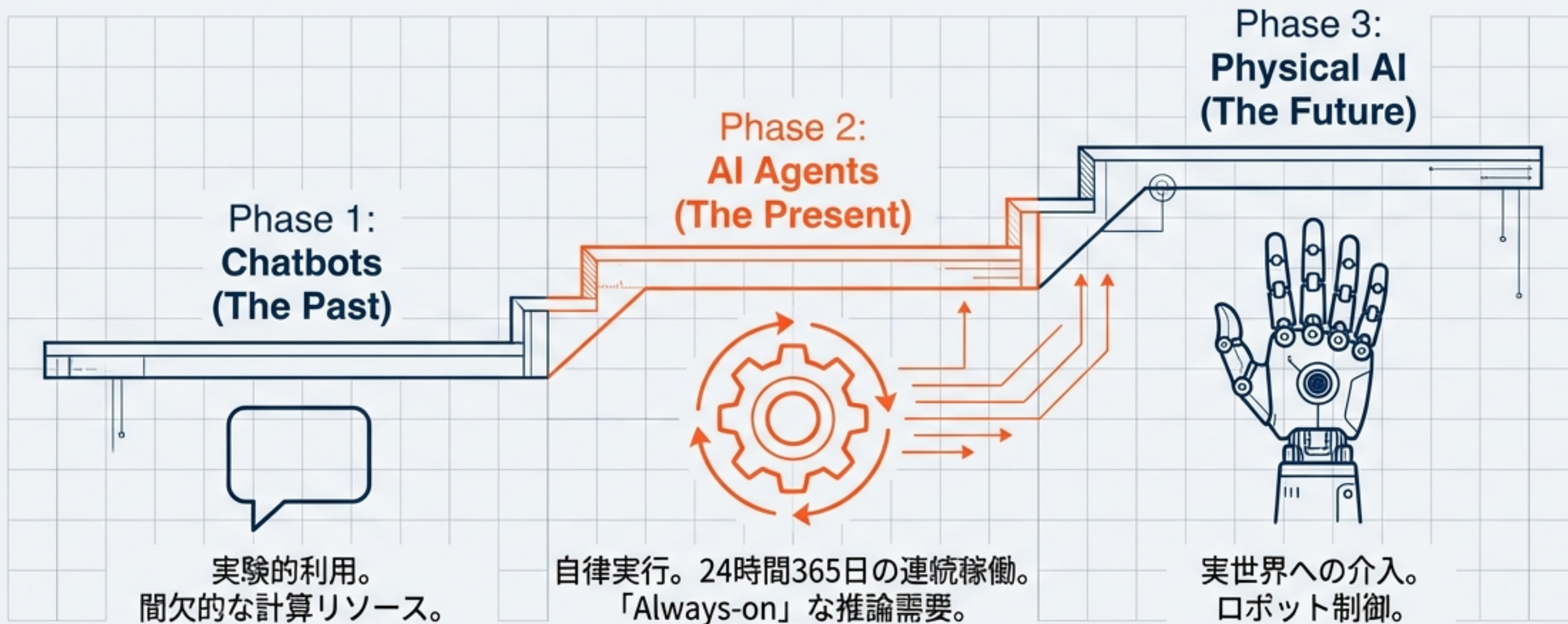


Key Insight

国家予算レベルの投資規模。R&Dではなく、データセンター・エネルギー・独自半導体という「物理インフラ」の建設競争へ突入。



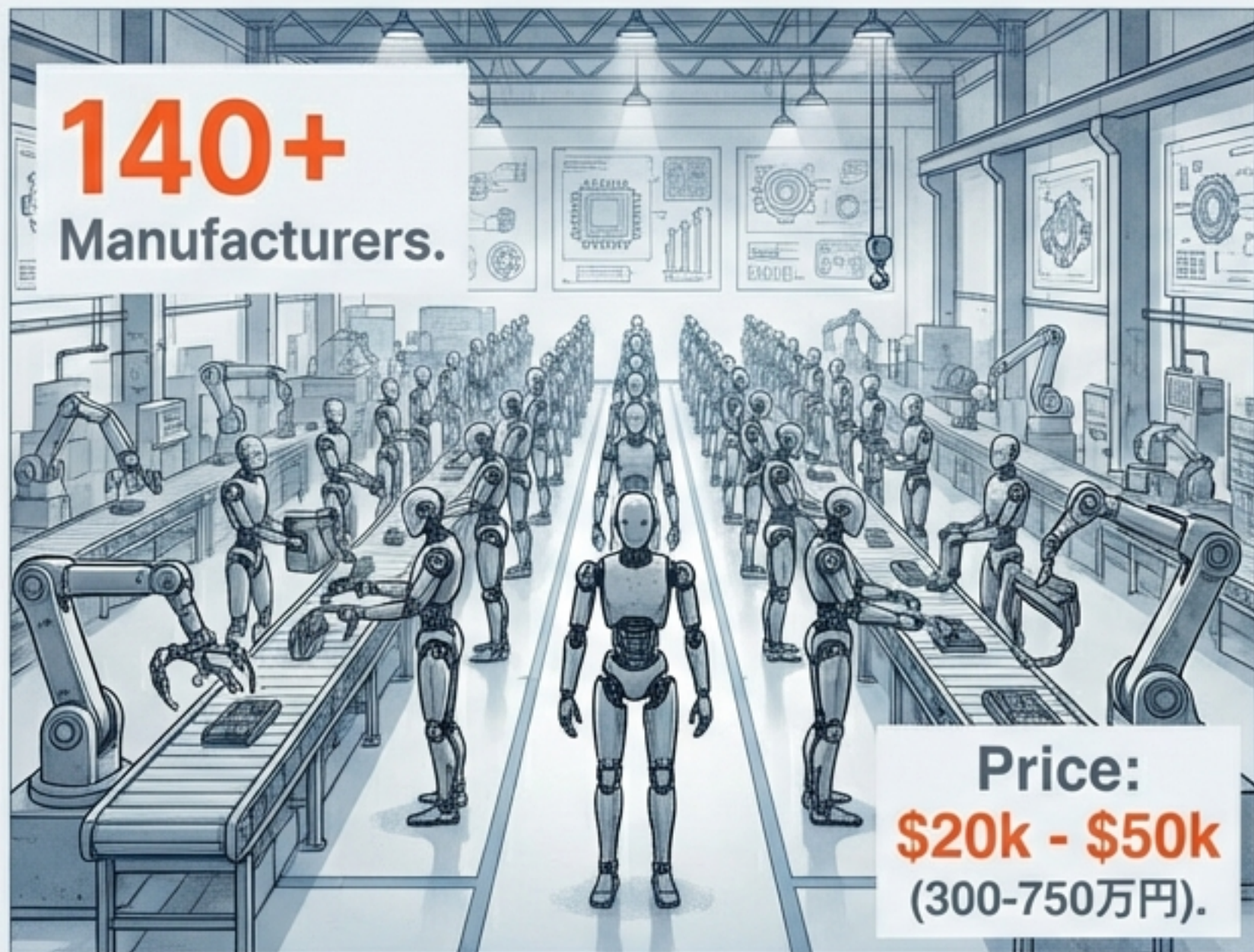
「学習」から「実装」へ：コスト構造の劇的変化



**Takeaway: エージェントは常時リソースを消費する。
「行動するAI」への移行が、電力・半導体需要を幾何級数的に押し上げる。**

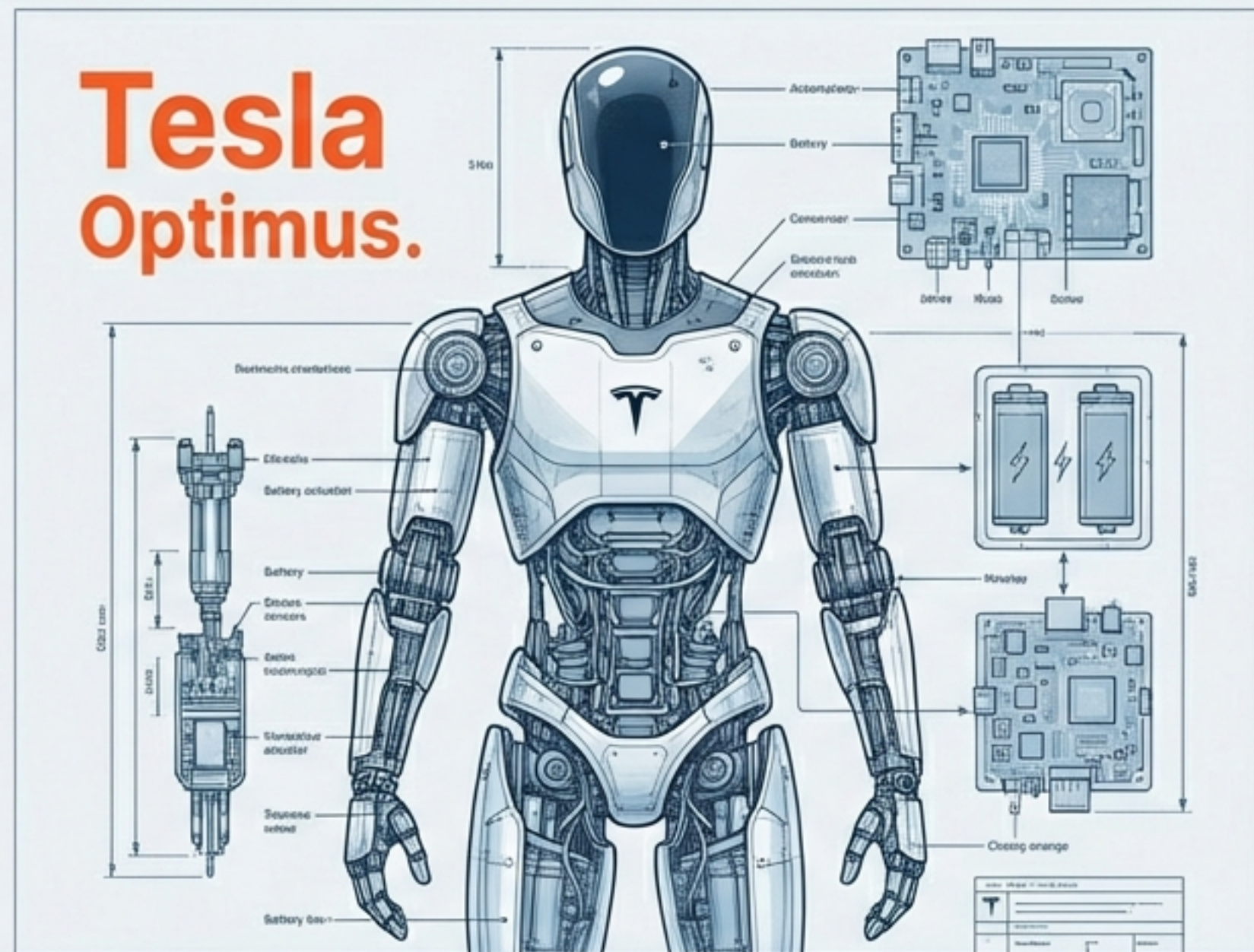
身体性AIとロボット量産元年：コモディティ化するハードウェア

China (Mass Production)



国家戦略としての『Embodied AI』

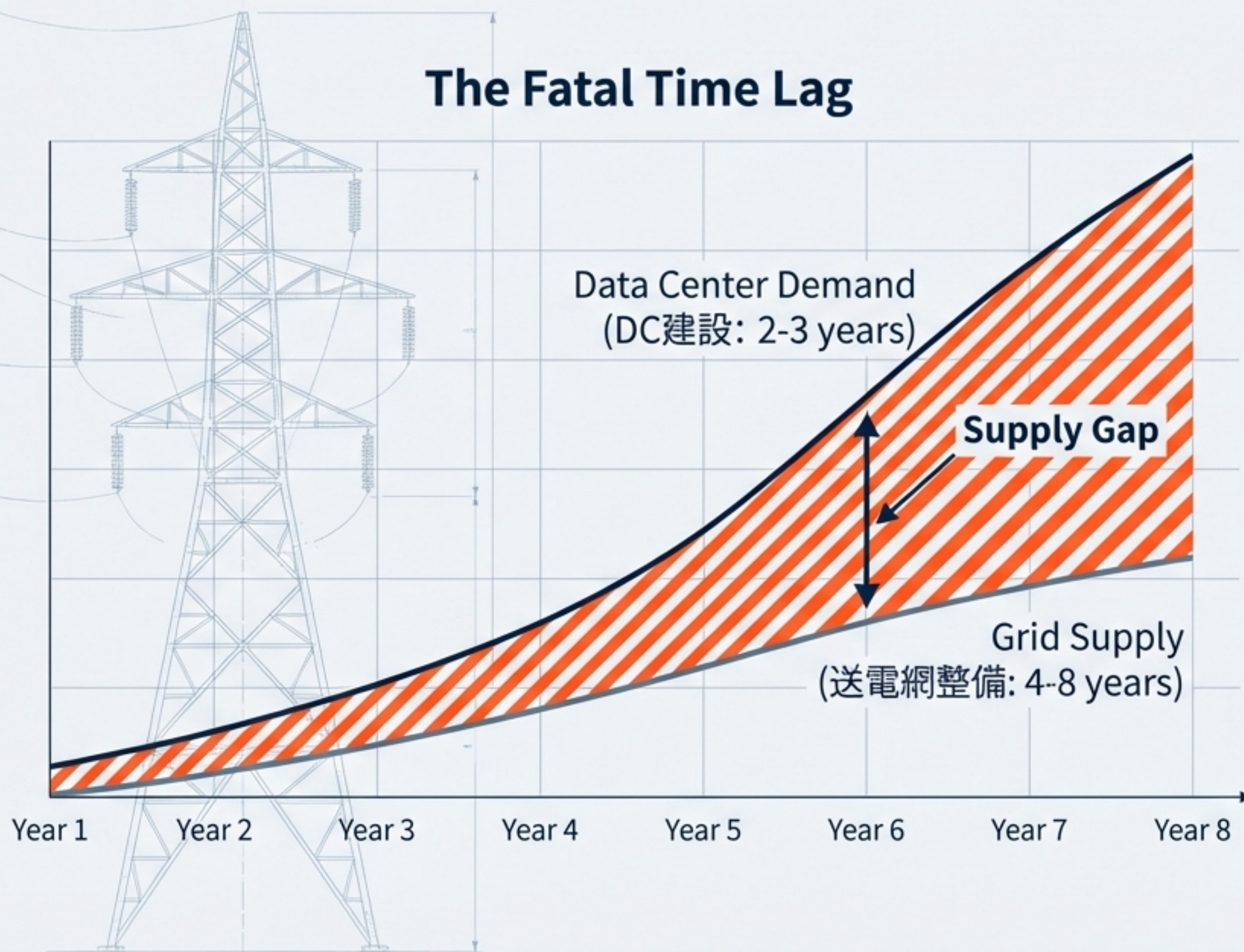
USA (Vertical Integration)



歴史上最も重要な製品。

Implication: 2026年はロボット産業の分水嶺。労働力不足の解消と引き換えに、ハードウェアの価格競争が激化する。

電力：最大の制約と商機 (Energy Bottleneck)

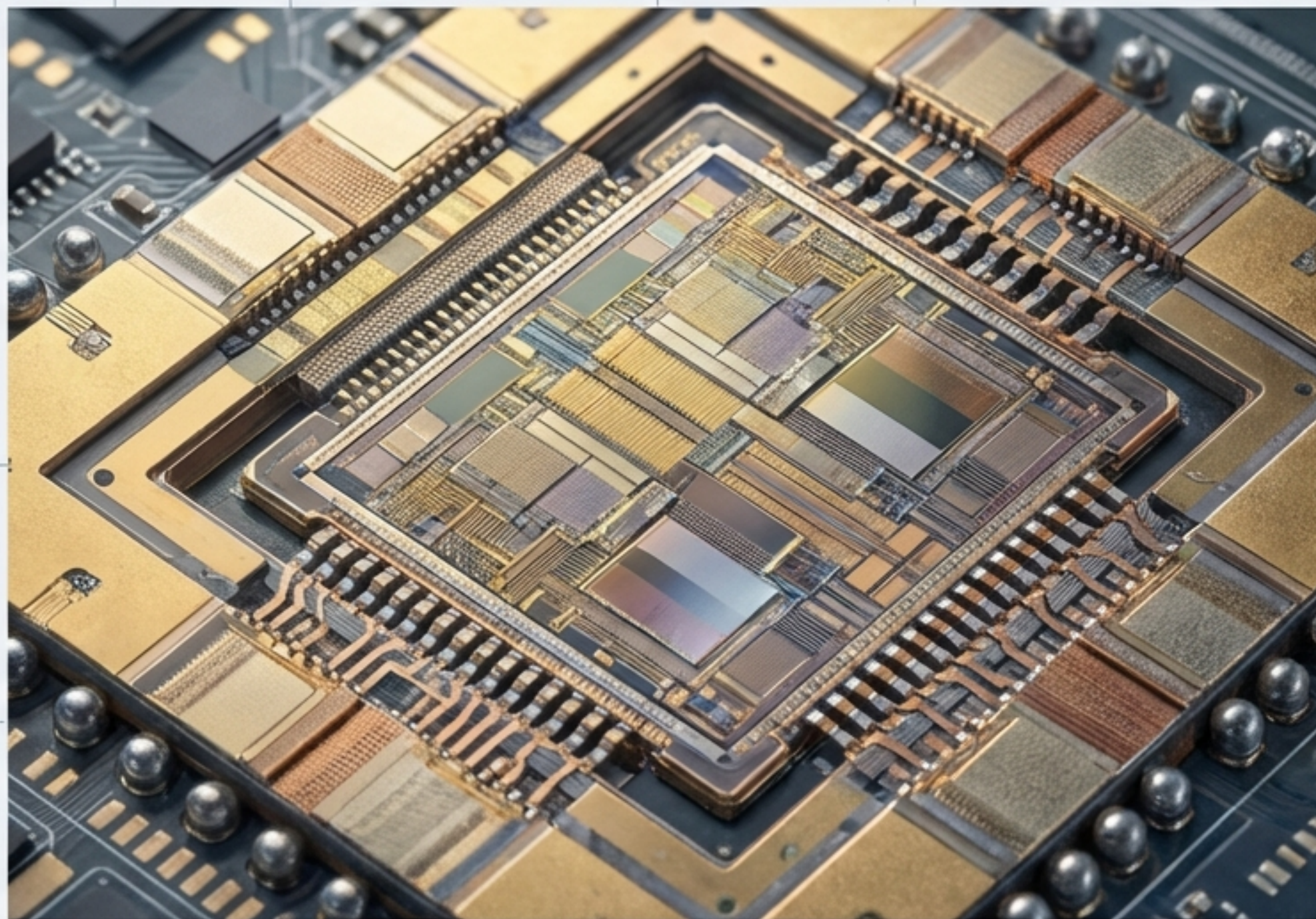


Crisis: データセンター電力需要は2040年に国内需要の10-20%へ (BCG)。

Opportunity: オンサイト発電、LNG、原子力再稼働のビジネスチャンス。



日本の勝機：半導体・素材の「スーパーサイクル」

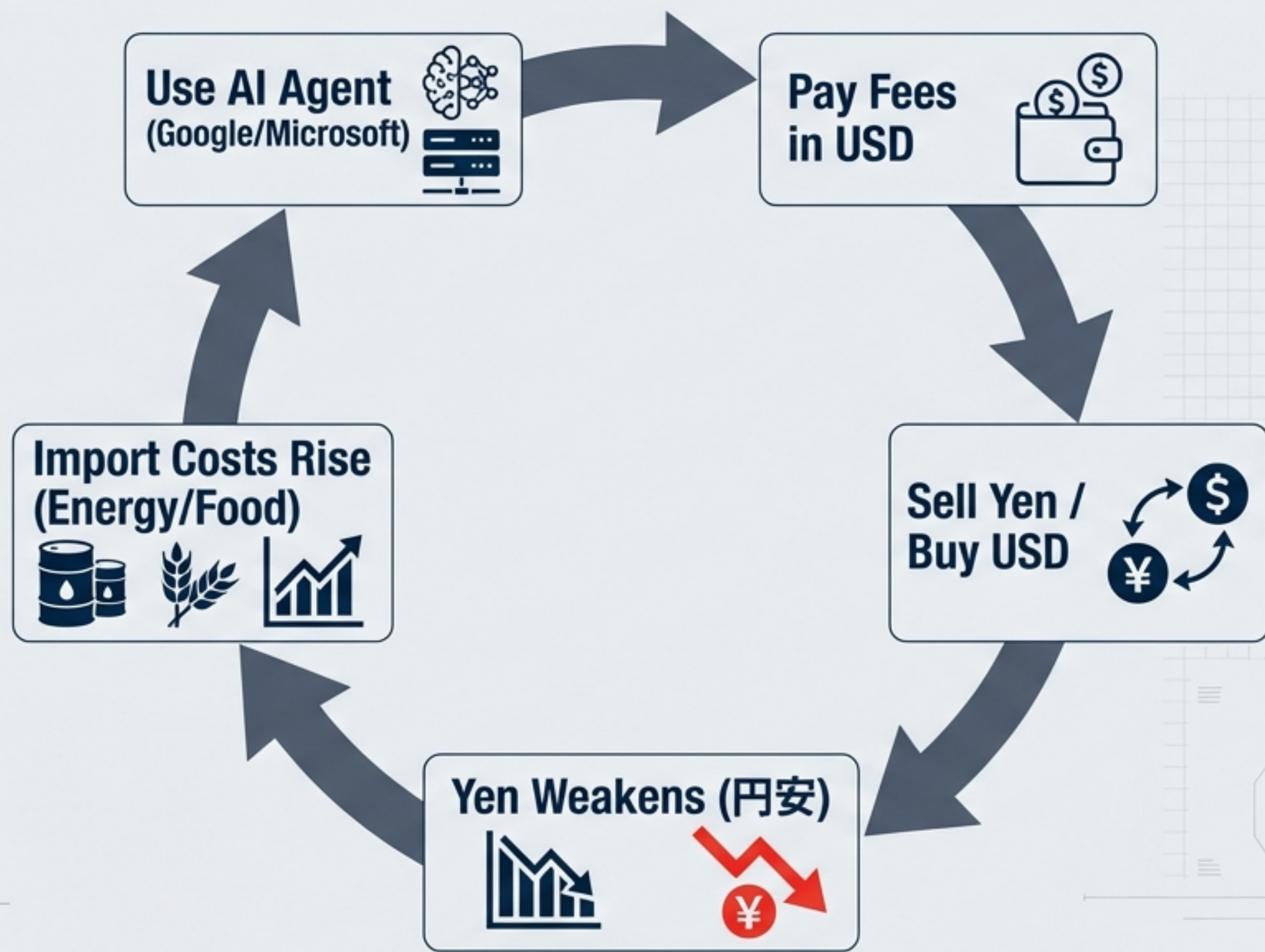


The Winners (Japan's Fortress)

1. 製造装置 (WFE):
Tokyo Electron, Advantest
Sales forecast +18%
2. 素材・後工程 (Materials/Back-end): Ibiden, Resonac
Advanced Packaging & Chiplets Monopoly

AIインフラには「先端パッケージング」と「チップレット」が不可欠。日本の精密化学・機械工学が独占するニッチ領域で利益が爆発する。

デジタル赤字と円安の構造化：サービスの輸入超過



Warning: Digital Colony

「デジタル赤字」の拡大。
経済の「脳」にあたる
インフラを米国に依存するリスク。

業界別影響マップ：破壊的創造の現場

Automotive (自動車)



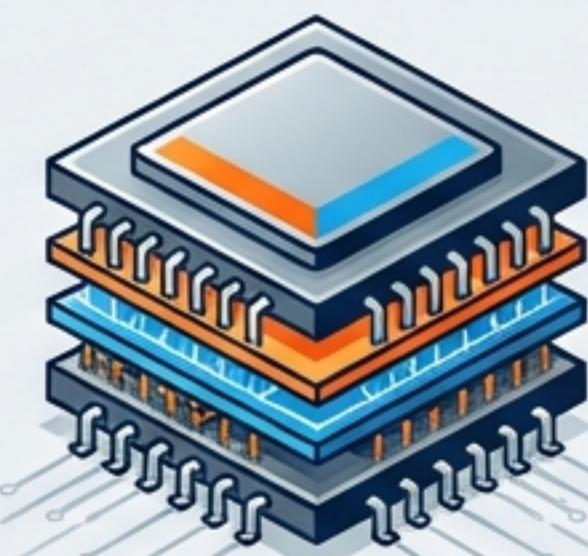
Toyota x Nvidia.
Software-Defined Factories.
デジタルツインによるセン
サー配置の自動最適化。

Service/Admin (サービス・事務)



定型業務の消滅。
「タスク実行」から
「エージェント監督」
への役割変化。

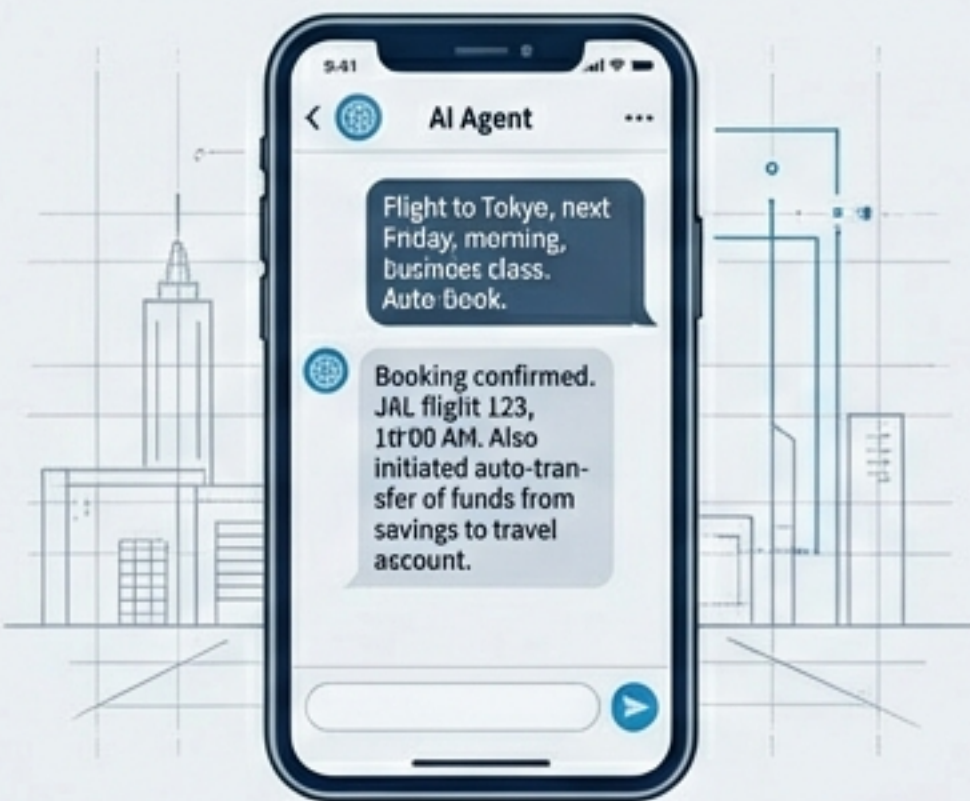
Semiconductors (半導体)



後工程 (Back-end) への
集中投資。
3Dパッケージング技術の
需要急増。

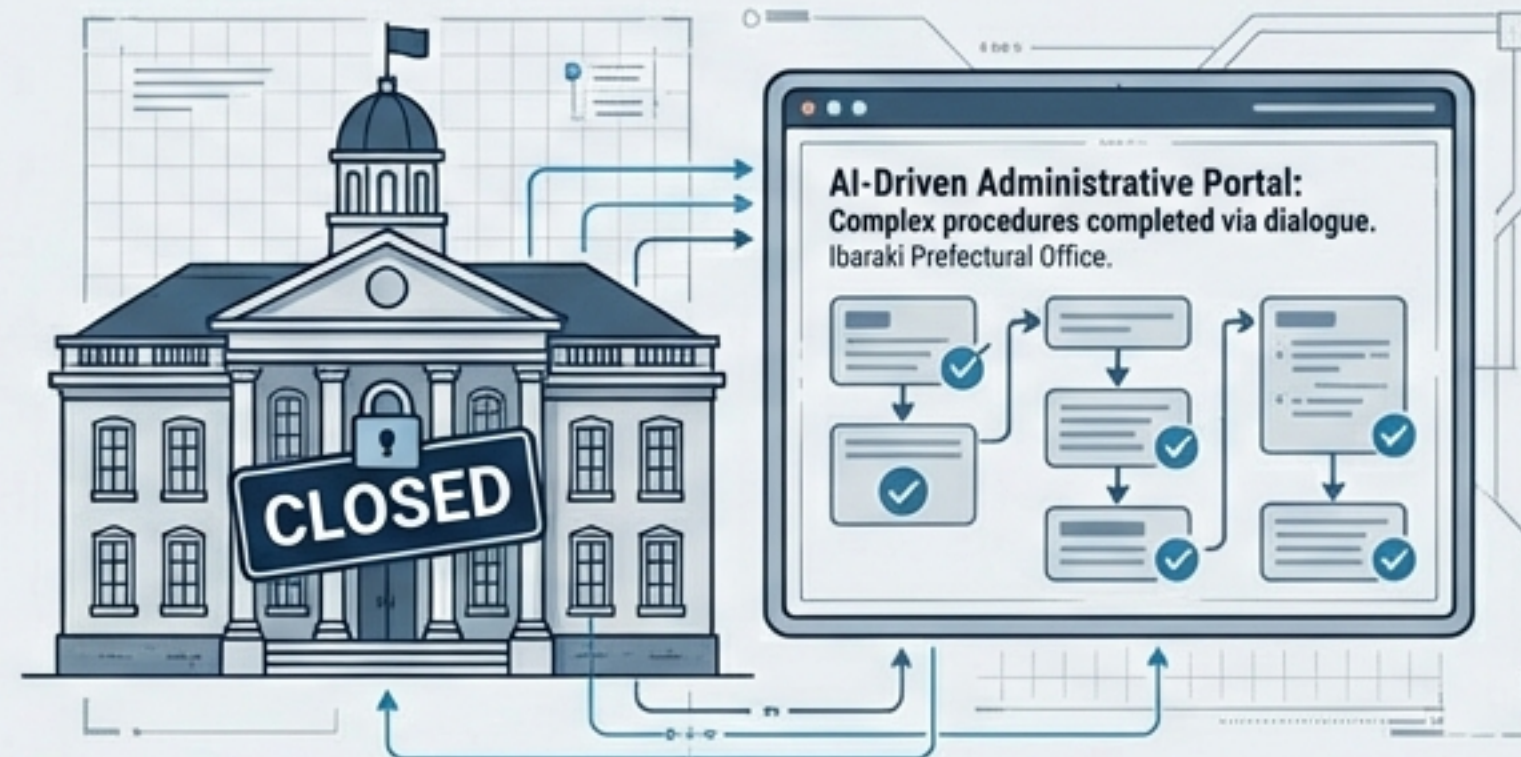
2026年の日常：エージェントとの共生

Personal (生活)



「一人に一台のエージェント」。
検索から「委任」へ。

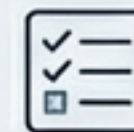
Public (行政 - Ibaraki Case)



役所に行かない生活。
対話型AIによる複雑な行政手続の完結。

Workforce Impact

スキルの二極化：Prompt Engineering/Oversight (監督) vs. Routine Execution (定型)。

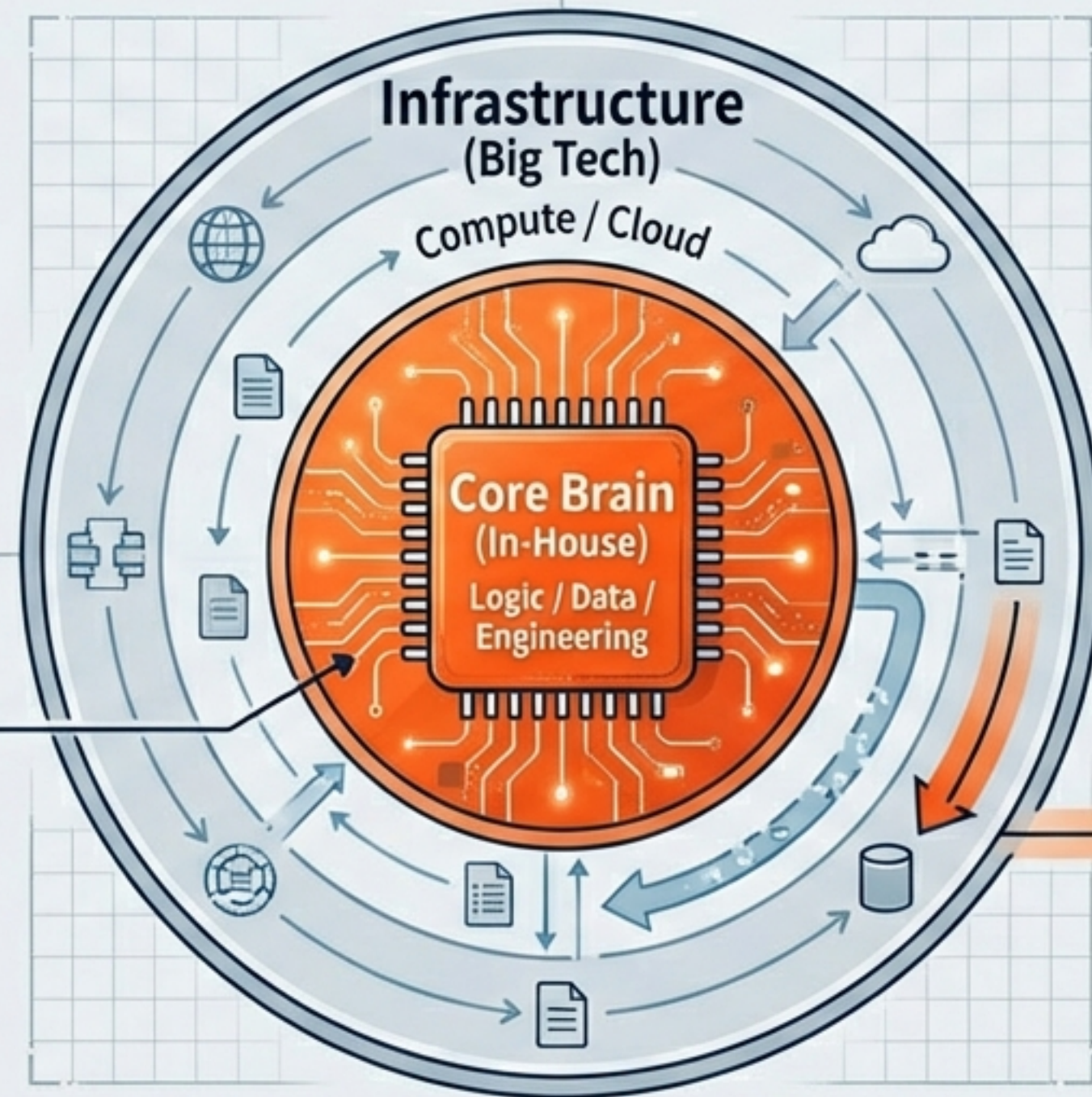
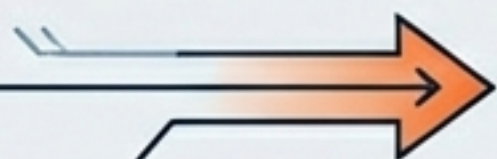


戦略Ⅰ：「IT主権」の奪還

脱・丸投げ (End Outsourcing)

Internalize (内製化)

企業の「脳」はアウトソースできない。コアロジックを担うエンジニアチームの樹立。



Hybrid Strategy

インフラはBig Techを利用しつつ、データと判断ロジックは自社で掌握する。
「テナント」からの脱却。



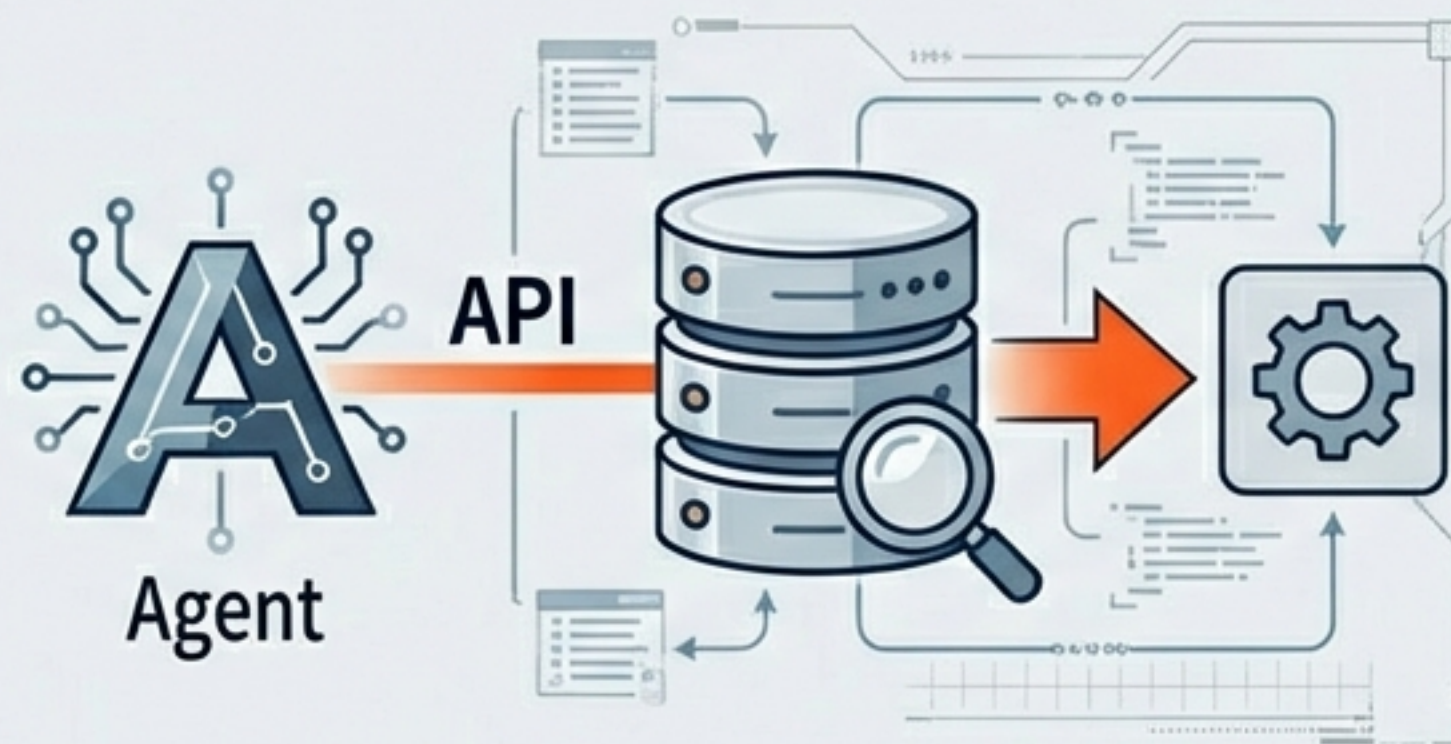
戦略Ⅱ：組織再編 - APIファーストと権限委譲

Human-Centric (Old)



Humans read Screens → Make Decisions.

Agent-Centric (New)



Agents read Code (API) → Execute Tasks.

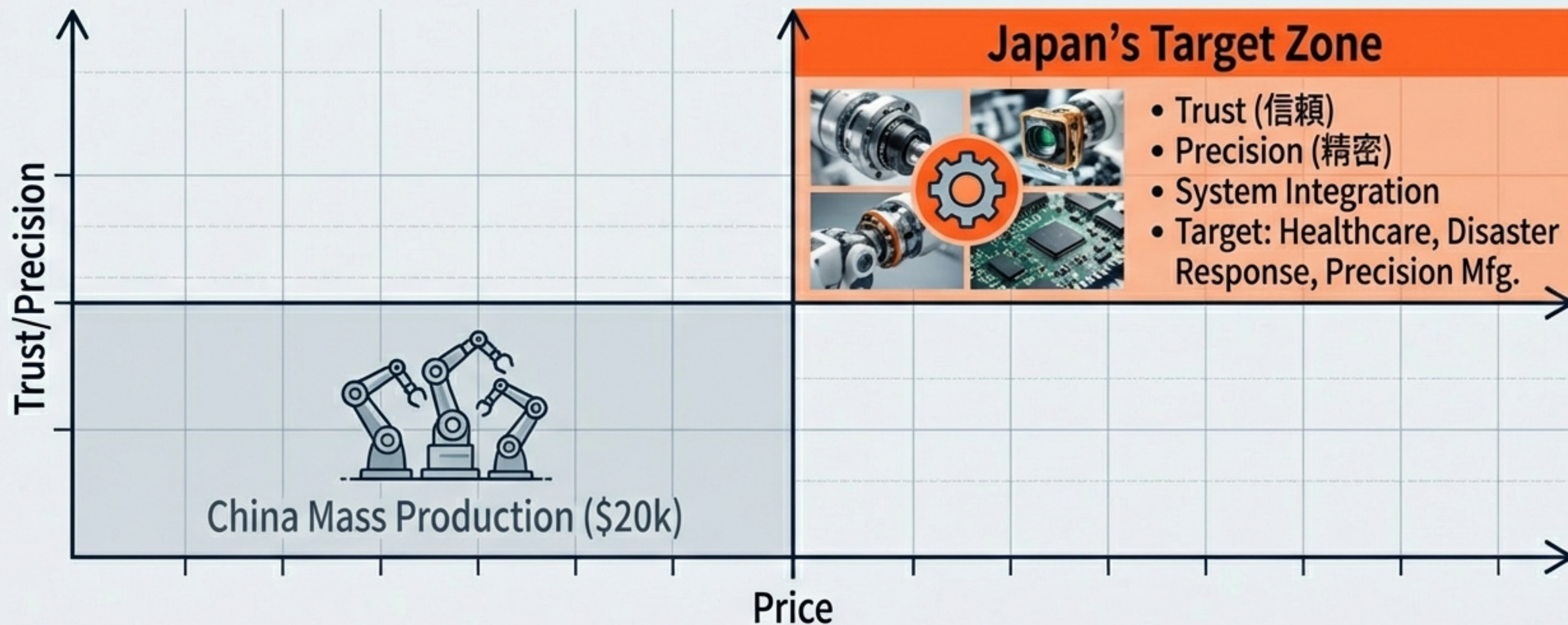


- データのAPI標準化。



- Governance: AIの決済権限額の定義。人間による承認プロセスの再設計。

戦略Ⅲ：ロボティクス - 「信頼」の高付加価値化



Business Model Shift: Sell the Outcome (Safety/Uptime), not the Machine.

結論：デジタルの小作人が、産業のオーナーか

Summary:

1. 95兆円の波は、AIを「重工業」へと変えている。
2. 日本はハードウェア、データ、信頼という物理資産を持っている。

デジタル赤字を傍観するな。
物理資産を武器に、テーブルの席を確保せよ。 ⚙️ ↗️
2026 is the year to build.